

象的環境に対する生育反応から、品種、播種期が同一の場合は原則的に南東北が北東北より疎植であるべきである。しかし、現実にはLAIの形成上南東北は北東北に比べて晩播であることによる負の面と、晩生品種の採用、高温、やや多照による正の面の相殺程度からみて、北よりやや疎植にする程度が妥当とみられる。土壤環境のうち、その種類の相違と密度との関係については本試験では明らかにできなかった。肥沃度の相違による栽植密度の反応も厨川では明らかでなかったが、福島現地における同反応の様相から、肥沃性の高い土壤ではそうでない土壤に比べて好適LAIに比較的早く到達するが、その限界の巾が大であるようにみられるので、この程度の生育量段階ではとくに上と区別する必要はないと思われる。

これを要するに東北の大豆生育には以上のような地域差があり、そのうち、生育量についてはおよそその好適LAIが見出され、これに接近させる技術は比較的容易であろう。しかし、子実着生効率(子実重/茎重またはLAI)の向上対策については、その低い地区はもちろん、その他の地区においてもさらに高収をねらう場合の大きな問題である。好適生育型の一類型である福島現地型(前歴は大麦→甘藷→ビール麦→大豆、堆肥各麦作1,500kg, 化成各作40kg/10a内外)が一応のめやすであり、これに接近するには土壤の肥沃化とやや早生品種を密植することにより、茎葉の早期確保とその後の伸長抑制を図ることが一つの手がかりであると考えられる。しかし、その他の条件については不明確な点が多く、これが今後に残された重要課題といえよう。

東北地方の栽培に適する早、中および晩生の枝豆 用大豆良品種について(予報)

松 本 定 夫・石 川 正 示

(東北農試刈和野試験地)

1 ま え が き

近年、東北地方の枝豆の需要が大きく伸び、その作付面積は2,215ha、収穫量19,300tonである(昭和40年度)²⁾。

福島県の枝豆栽培面積は590ha、東京市場への出荷量は1,309ton、9・10月の市場占有率は90%に達している(昭和38年度)¹⁾。その他の諸県は福島県ほどには枝豆栽培が盛んではないが、それでも地方都市などの地場消費は大きく生産量が少なくない。枝豆は初夏から晩秋まで需要がつづき、寒冷地に属する東北地方では、早く出荷される早生ものが歓迎され、価格も高い。しかしながら、そろそろ枝豆の出荷もなくなりかけた晩秋にも引きつづき需要があつて、その時期における枝豆の価格はすこぶる高い。福島県では昭和36年に、早生枝豆品種として「五葉大豆」を、中晩生枝豆品種として「におい豆」を、県の優良品種に指定しているが、その他の諸県ではまだ枝豆の奨励品種あるいは優良品種などを指定していないようである。枝豆用大豆品種は早生、中生、晩生など熟期は大幅に相違し、食味、収量なども品種により相

当異なっているので、各地から多数の枝豆用品種を蒐集し、1966年に諸調査を実施して、各熟期群別に品種の優劣についておよその判定を試みた。ただ1カ年の調査にすぎず、また1区制で実施した予備的調査なので収量性については必ずしも正確を称しがたい憾みがあるが、品種の優劣についておよその判定ができたように思えるので、成績の概要を報告して参考に供する。

2. 試 験 方 法

1. 供用圃場：秋田県仙北郡西仙北町刈和野・上野台試験圃
2. 耕種梗概：下記のほかは当场普通栽培耕種様式による。
 - (1) 栽植密度

極早生～早生種：	60cm×15cm	1株2本立
中生種	60cm×20cm	〃
中晩生～晩生種：	60cm×30cm	〃
 - (2) 播種期 5月25日
3. 1区面積および区制

極早生～早生種：6.5m² 1区制中生種：8.5m² //中晩生～晩生種：13.0m²

3 試験結果および考察

1. 試験結果

試験の結果を一覧表にして示せば第1表—1および—2のとおりである。

2. 異名同種と認められる品種などについて

供試品種中には諸特性が殆んど全く同じで異名同種と認められる品種や、すこぶる良く近似している品種が少なくない。種子商社などが適宜な名称をつけて種子を販

売しているためであろう。

いま諸特性が殆んど全く同じで異名同種と認められる品種をあげれば次ぎのとおりである。

極早生枝豆＝極早生はやぶさ枝豆

早生緑枝豆＝白花大袖振

五葉大豆(A)＝五葉大豆(B)＝五葉大豆(C)

Wolverin (A)＝Wolverin (B)

これらについて諸特性が良く近似する品種は、極早生「八重房成枝豆」≡「青白房成枝豆」≡「早生白鳥枝豆」である。

なお、五葉大豆(A)は、品種内に諸形質のやゝ異なる個体が存在し混系と認められる。

第1表—1 生育、収量、食味などに関する調査成績

番号	品 種 名	収 穫 適 期	茎長 cm	分枝数 本	生 莢 重 (a 当り)				莢 の 大・小	着莢の 粗・密	食味	有望度
					上莢重	枇莢重	計	対標準比				
		月 日			kg	kg		%				
1	小極早	8. 8	27.0	0	25.6	0.25	25.85	72	やゝ小	中	◎	
2	極早	8. 8	29.0	0.4	24.4	0.64	25.04	70	やゝ小	やゝ密	◎	
3	六早	8. 8	22.0	0.6	22.7	0.50	23.20	65	中	やゝ粗	◎	
4	極早生	8. 8	26.5	0.3	22.9	0.53	23.43	66	やゝ小	やゝ中	◎	
5	(比較)奥原1号	8.11	39.2	0.8	35.0	0.69	35.69	100	中ノ大	やゝ粗	◎	○
6	早生白鳥	8.18	40.8	4.0	59.7	1.56	61.26	172	やゝ中	やゝ密	◎	
7	早生系八重房	8.18	51.6	3.3	60.2	1.81	62.01	174	やゝ中	やゝ密	◎	○
8	早生八重房	8.18	42.9	3.2	58.2	1.78	59.98	168	やゝ中	やゝ密	◎	○
9	早生緑大袖	8.18	38.2	3.7	55.5	1.47	56.97	160	やゝ中	やゝ密	◎	○
10	早生緑大袖	8.18	42.8	3.7	52.3	1.64	53.94	151	やゝ大	やゝ中	◎	○
11	吉岡大粒	8.24	58.4	5.9	47.2	5.42	52.62	147	中	やゝ密	◎	
12	青白房成枝	8.24	53.7	4.5	69.8	1.17	70.97	199	やゝ中	やゝ密	◎	
13	白花大袖	8.24	40.1	3.6	54.7	1.81	56.51	158	やゝ中	やゝ密	◎	○
14	中生光	8.30	65.2	4.1	75.0	3.46	78.46	126	やゝ中	やゝ密	◎	○
15	早生七	8.30	69.6	2.6	44.3	3.54	47.84	77	やゝ中	やゝ密	◎	○
16	(比較)七	9. 2	72.0	5.9	57.7	4.71	62.41	100	やゝ中	やゝ密	◎	○
17	Bansei	9. 2	57.7	5.7	65.6	1.42	67.02	107	やゝ中	やゝ密	◎	○
18	Hakote	9. 2	53.8	5.0	49.6	3.12	52.72	84	やゝ中	やゝ密	◎	○
19	白鶴の子	9. 2	70.1	3.1	51.8	2.92	54.72	88	やゝ中	やゝ密	◎	○
20	Chusei	9. 7	85.7	4.1	69.7	2.08	71.78	115	やゝ中	やゝ密	◎	○
21	Sato—3	9. 7	57.7	5.8	61.8	10.62	72.42	116	小	密	△	
22	五葉大豆(A)	9. 7	77.1	4.2	47.6	10.41	58.01	93	中	密	△	
23	Kura	9.12	53.1	2.6	64.7	1.42	66.12	106	やゝ中	密	△	
24	五葉大豆(B)	9.12	82.1	5.3	76.0	1.17	77.17	124	やゝ小	密	△	
25	五葉大豆(C)	9.12	82.2	5.9	63.3	1.46	64.76	104	やゝ中	密	△	
26	枝豆用在来種(長沢氏揺集)	9.27	74.5	5.6	67.3	2.08	69.38	111	やゝ中	密	△	
27	Wolverin (A)	9. 2	54.3	4.6	70.8	4.17	74.97	175	やゝ中	密	△	
28	Tokyo	9. 7	86.7	7.8	63.9	1.67	65.57	153	やゝ小	密	△	
29	Wolverin (B)	9. 7	64.5	4.7	54.2	6.84	61.04	142	やゝ大	密	△	
30	茶豆	9.16	88.9	8.8	53.5	3.53	57.03	133	やゝ大	密	△	
31	に お い	9.16	83.8	3.9	57.2	0.97	58.17	135	やゝ中	密	△	
32	(比較)糲イラ	9.27	122.2	5.6	41.0	1.95	42.95	100	やゝ大	密	△	○
33	鞍ノク	10. 1	113.4	8.9	44.0	4.73	48.73	113	やゝ中	密	△	
34	タノク	10. 4	104.7	8.3	37.9	7.23	45.13	105	やゝ中	密	△	
35	枝豆用在来種(若松氏揺集)	10.11	83.7	7.5	41.7	1.33	43.03	100	やゝ中	密	△	○
36	小倉	10.11	77.5	8.1	47.8	1.11	48.91	114	やゝ中	密	△	○
37	雪	10.11	74.2	4.4	30.1	1.67	31.77	74	やゝ中	密	△	○
38	青	10.11	111.6	9.2	39.0	1.53	40.53	94	やゝ大	密	△	○
39	晩生黒大	10.17	102.9	5.1	48.0	3.89	51.89	121	やゝ大	密	△	○

注. 番号1. 10. 13は雪印種苗K. K 2. 4. 6. 7. 8. 9タキイ種苗K. K 12. 大和農園K. K

その他は国および県農試より取寄せ

第1表—2 一般特性に関する調査成績

番号	開花 期	花色	成熟期	毛 茸				蔓化	倒伏	乾 燥 子 実 (a 当り kg)			乾 燥 子 実 の			
				色	直	扁	多・少			子実重	対標準比	百粒重	大	形	色	臍 色
	月 日		月 日							kg	%	g				
1	7.10	紫白	8.25	淡	褐	直	中	無	無	7.5	57	18.5	中ノ中	扁橢円	淡黄～帯淡緑	黒
2	7.10	紫白	8.25	〃	〃	やや直	〃	〃	〃	7.8	60	22.0	〃	〃	帯淡緑	〃
3	7.10	紫白	8.28	〃	〃	直	〃	〃	〃	8.1	62	23.7	中ノ中～中ノ大	〃	淡黄～帯淡緑	〃
4	7.10	紫白	8.26	〃	〃	〃	〃	〃	〃	8.6	66	21.0	中ノ中	〃	帯淡緑	〃
5	7.13	紫白	9.7	褐	〃	〃	〃	〃	〃	13.1	100	29.0	中ノ大～大ノ小	扁 球	黄 白	褐黒
6	7.23	紫白	9.10	淡	褐	やゝ扁	〃	〃	〃	18.1	138	26.0	中ノ中～中ノ大	扁橢円	淡黄～帯淡緑	〃
7	7.23	紫白	9.11	淡	褐	直	中	〃	〃	18.1	138	22.8	中ノ中～中ノ大	〃	淡黄白～帯淡緑	〃
8	7.24	紫白	9.13	〃	〃	やや直	〃	〃	〃	18.1	138	25.0	中ノ中～中ノ大	〃	黄白～帯淡緑	〃
9	7.22	〃	9.13	〃	〃	〃	〃	〃	〃	18.9	144	29.6	中ノ大～大ノ小	〃	淡黄白～帯淡緑	〃
10	7.22	〃	9.15	〃	〃	直	〃	〃	〃	16.7	127	20.2	〃	〃	淡黄～帯淡緑	〃
11	7.23	紫	9.10	褐	〃	〃	多	〃	〃	16.1	123	30.0	〃	〃	〃	〃
12	7.23	〃	9.11	淡	褐	〃	中	〃	〃	18.6	142	23.3	中ノ中～中ノ大	〃	〃	〃
13	7.21	白	9.14	〃	〃	〃	〃	〃	〃	14.2	108	28.8	中ノ大～大ノ小	〃	〃	〃
14	7.22	〃	9.25	〃	〃	やや直	少	〃	〃	22.1	105	28.5	中ノ中	扁 球	黒	〃
15	7.31	〃	9.28	灰	白	やゝ扁	中	〃	〃	17.3	82	37.5	中ノ大	〃	黄 白	極淡褐
16	7.31	〃	10.1	褐	〃	直	〃	〃	〃	21.0	100	27.5	中ノ大～大ノ小	〃	黒 白	極黒
17	7.26	紫白	9.27	淡	褐	〃	多	〃	〃	17.9	85	22.5	中ノ中	〃	淡黄白	極淡褐
18	7.27	〃	10.1	〃	〃	〃	少	〃	〃	15.0	71	21.8	中ノ大～大ノ中	扁橢円	淡 緑	極黒
19	7.25	〃	10.11	灰	白	やゝ扁	〃	〃	〃	15.2	72	35.7	大ノ小～大ノ中	扁 球	黄 白	極淡褐
20	8.1	〃	9.30	〃	〃	〃	中	〃	〃	24.6	117	25.8	中ノ大～大ノ小	扁橢円	淡黄白	〃
21	7.27	〃	10.7	褐	直	〃	多	〃	〃	19.2	91	23.5	中ノ中～中ノ大	〃	黒	黒
22	8.2	〃	10.7	灰白～褐	やや直	〃	中	〃	〃	19.8	94	20.0	中ノ中	〃	淡 緑	淡 緑
23	7.23	〃	9.28	淡	褐	やゝ扁	少	〃	〃	15.0	71	22.5	中ノ大	〃	淡緑～黒	淡 黒
24	8.2	〃	10.7	灰	白	やや直	中	〃	〃	18.5	88	22.0	中ノ中	〃	淡 緑	淡 緑
25	8.3	〃	10.7	淡	褐	〃	少	〃	〃	20.2	96	21.7	〃	〃	〃	〃
26	8.9	〃	10.27	灰	白	やゝ扁	中	〃	〃	16.7	80	27.7	中ノ大	〃	黄白～帯淡緑	極淡褐～淡緑
27	7.23	紫白	10.2	〃	〃	〃	中	〃	〃	22.0	188	25.5	中ノ中	橢 円	黄 白	極淡褐
28	8.4	〃	9.29	〃	直	〃	中	〃	〃	17.0	145	21.5	中ノ小	扁橢円	〃	淡褐～褐
29	7.24	紫白	10.2	淡	褐	やゝ扁	〃	〃	〃	18.5	158	25.3	中ノ中	橢 円	〃	極淡褐
30	8.6	〃	10.9	褐	やや直	〃	〃	〃	〃	16.4	140	26.2	中ノ大	扁橢円	茶	薄 茶
31	8.8	紫	10.20	淡	褐	やゝ扁	多	〃	〃	14.3	122	30.3	〃	〃	淡 緑	淡 緑
32	8.11	〃	11.2	灰	白	やゝ扁	少	少	少	11.7	100	28.2	中ノ中	〃	淡黄白	淡褐
33	8.13	〃	11.7	淡	褐	やゝ扁	中	中	中	15.3	131	25.3	中ノ大	〃	黒～淡緑	淡 黒
34	8.20	白	11.7	褐	やや直	〃	多	甚	無	15.6	133	29.8	中ノ大～大ノ小	〃	黄 白	褐 黒
35	8.6	紫	11.4	〃	〃	扁	中	無	甚	6.5	56	26.5	中ノ中	〃	緑	淡 緑
36	8.12	〃	11.5	〃	直	〃	中	無	甚	12.0	103	28.0	〃	〃	〃	〃
37	8.1	〃	11.7	灰	白	やゝ扁	多	無	無	8.7	74	29.0	中ノ大～大ノ小	〃	黄 白	褐 黒
38	8.20	〃	11.8	〃	〃	〃	中	無	中	9.2	79	29.3	〃	〃	暗 緑	褐 黒
39	8.22	〃	11.8	淡	褐	直	多	多	多	10.4	89	30.7	中ノ大	扁 球	黒	〃

注. 1) 食味欄の◎は……極上, ○……上, ⊙……中, △……やゝ下, ×……下,

2) 有望度欄の●……有望, ○……やゝ有望

3. 茎長, 分枝数について

茎長および分枝数についてみると, 生育日数の短い極早生から早生品種群は一般に短茎で, 分枝数が少なく, 生育日数の長い晩生品種群ほど茎長, 分枝数ともに長大である。

晩生品種群に属する品種のなかには蔓化, 倒伏がはなはだしく隣接株と交錯し, 莢が不揃いとなり, 熟期も遅延するなど諸障害の多い品種も少なくない。

4. 莢, 毛茸について

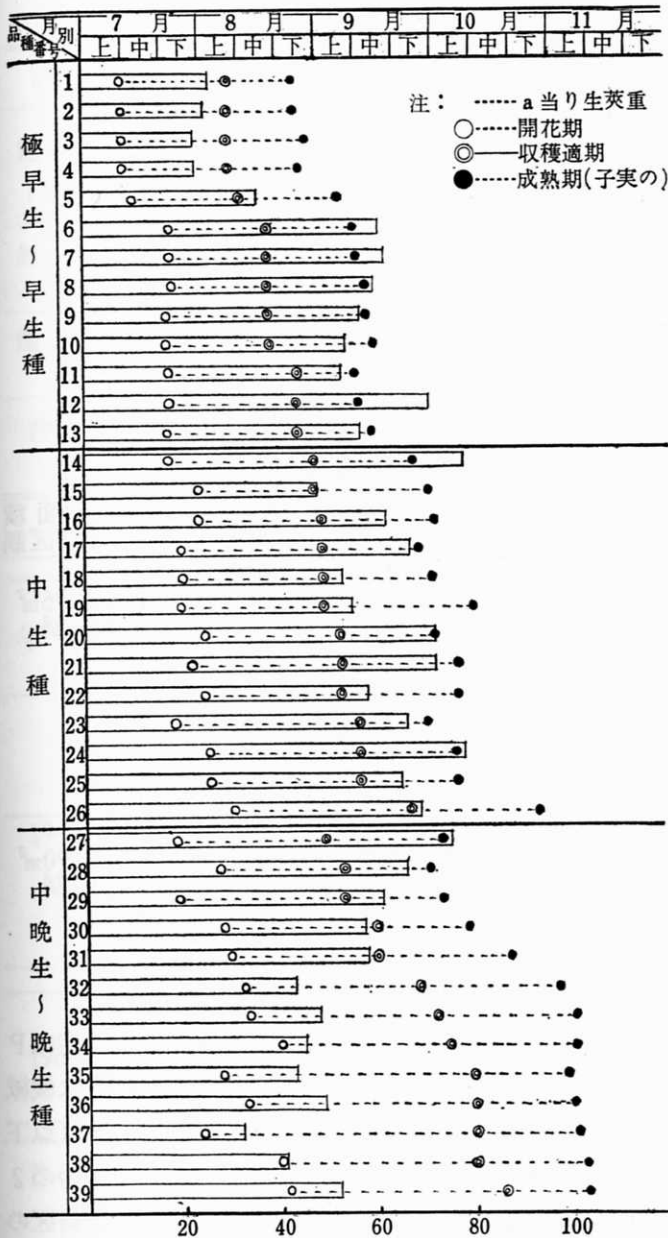
青果市場においては莢の大きさ, 毛茸の色彩(毛茸色)および毛茸の粗密などを, 枝豆の特性として重要視している。すなわち, 大莢美麗で, 毛茸の濃褐色は嫌われ,

灰白色あるいは極淡褐色で, かつ毛茸が密でないことが好まれる。これらの諸特性を第1表—2についてみると次ぎのとおりである。

極早生から早生種は一般に中ノ大莢～やや小莢, 毛茸は密度が中程度, 淡褐色であるが, 中生から晩生種は一般に大莢で生莢も美しい品種が多く, なかには毛茸がやや少なく灰白色の品種もみられる。

5. 食味について

枝豆のもつ特殊な味や香りは品種および収穫時期によって変化する。これらに対する人の嗜好性もある程度は相違するようで万人一致するものではないが, 供試品種の食味鑑定結果は第1表—1に示したとおりである。



第1図 供試品種の生莢収量(kg)

中晩生から晩生種は、一般に最も食味が優れ、ついで極早生および中生種である。また、かならずしも枝豆として優れたものではないが、「におい豆」のように、茹でた場合に独特の芳香を発散させる特殊な品種もある。

第2表 熟期群別にみた枝豆良品種

熟期 (収穫適期)	良品種名
8月上・中旬	奥原1号, 極早生八重房成枝豆 早生緑大袖振
8月下旬～9月上旬	白花大袖振, 早生盆, 七月豆 chu Sei
9月下旬～10月上旬	桃イラズ, 枝豆用在来種(若松 氏搜集), 青バツ

6. 生莢収量について

供試品種の生莢収量も図示すると第1図のとおりである。

8月上旬収穫適期に達する極早生種は一般に極めて少収で、その収量はa 当り25kg前後、8月中・下旬に適期に達する早生種は50～60余kg、9月初旬から中旬ころに適期に達する中生種は50～75kgを普通とする。中・晩生種の収量もこれら中生種と大差はないが、10月以降に収穫適期にはいる晩生ないし極晩生種は、冷涼な気候の影響をうけ収量が少なくa 当り50kgに達するものが殆んどない。

7. 熟期群別の良品種

生莢収量、食味、その他諸特性などを総合して判定した各熟期群別にみた品種の有望度は、すでに第1表—1に記載されているが、これにもとづいて熟期群別の良品種を第2表に取りまとめて、この報告のしめくくりとしたい。

参 考 文 献

- 1). 清野栄司. 東京市場から見た(福島県)園芸特産物の位置——市場出廻量からみた動向分析——. 東北農業研究 第8号. 昭和41
- 2). 第42次農林省統計表. 昭和40. 41
- 3). 千葉県農業試験場. 蔬菜春夏作試験成績書. 昭和27
- 4). // 蔬菜試験成績書. 昭和37. 38
- 5). // 蔬菜試験成績書. 昭和39. 40